

福島食遺産

2025. 5. 22

世には、専門店といえるものが存在する。食事を提供するお店にも専門店がある。ラーメン店、定食屋さん、お蕎麦屋さん、カレー店などのレベルはよくある。では、生姜焼き定食専門店、カツカレー専門店となると、どうだろうか。そう多くはないだろう。

福島に、生姜焼き定食専門店がある。お昼のみの営業で、限定30食ほどしかない。食べるのは至難の業とまではいかないが、とにかく早く行くにこしたことはない。元々は、生姜焼き定食の他にもメニューはあった。夕方まで営業していた。それが、徐々に縮小されていき、お昼のみの生姜焼き定食専門となった。

このお店には、昔から行っていた。そのため、お店の変遷がわかる。毎週必ず行くとか、月に何度も行くといいことはない。年に数回だろうか。ふとしたときに食べたくなる。あの生姜焼きが恋しくなる。もし、福島にお客さんが来て、食事に連れていくとしたら、このお店は有力な候補となる。通常イメージされる生姜焼きとは趣を異にする。一度食してほしい一品である。

カレーが好きである。カレーライスを食べたくなることがある。インド風カレー、欧風カレー、スープカレー、いずれも好きである。一言でカレーライスといっても、シーフードカレー、野菜カレー、カツカレーなどバリエーションが多い。こういった場合、必ずといっていいほどカツカレーをオーダーしている。

郡山に、カツカレー専門店があることを知った。これは行くしかない。当然ながらメニューはカツカレーしかない。値段はというと、990円だった。まあ、そんな感じだろう。“追いカレー”という文字が目に入った。要するに、カレールーの追加である。料金は、何と10円である。注文したカツカレーが出てきた。特段、ルーが少ないということはない。だが、10円といわれると、心理的についつい頼んでしまう。990円に10円で、計1000円。なるほど最初から追いカレーを注文することを見越したシステムになっている。見事である。

もう昔のことになるが、メニューが二つしかないラーメン店があった。普通盛りと大盛りである。ということは、実質一つである。それが、中華そばだった。確かに、ラーメンでもなく支那そばでもなかった。シンプルなのだが、妙においしかった。

生姜焼きにせよカツカレーにせよ中華そばにせよ、よほどの自信がなければ一品で勝負することはできないだろう。その一品にかけたプロとしての思い入れがなければ、とてとてもやっつけられるものではないのではなかろうか。いずれのお店も食後感がよい。

あの中華そばは、今となっては食べることはできない。残念である。ああいったお店は、福島食遺産としてでも遺すことはできないものだろうか。生姜焼き定食のお店は、ぜひ登録したい。